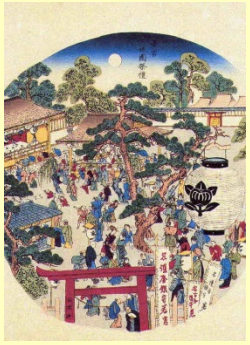
第９２回愛知学院大学モーニングセミナー

「名古屋の歴史発見!!」
～旧町名の蒲焼町は今のどこでしょう？～

旧町名復活を目指す有志の会
社会保険労務士法人北見事務所
所長　北見　昌朗

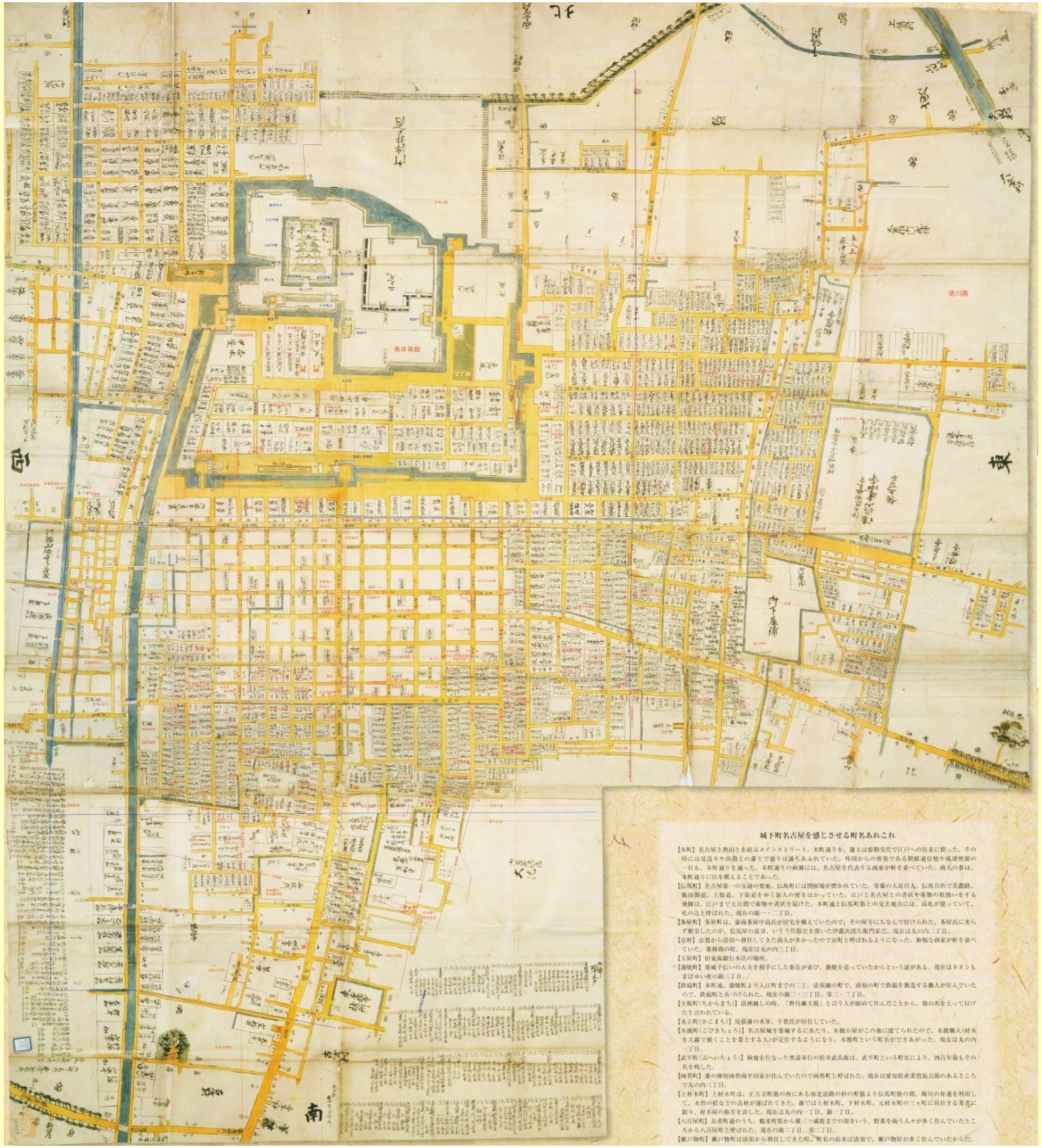
四間道・しけみち（名古屋市西区那古野）



昔の七つ寺

昔の蒲焼町のいま

2013年11月12日


東
南
城下町名古屋を感じさせる町名あれこれ
【本町】名古屋と熱田とを結ぶメインストリート。本町通りを、藩主は参勤交代で江戸への往来に使った。その時には見送りや出迎えの藩士で通りは満ちあふれていた。外国からの賓客である朝鮮通信使や琉球使節の一行も、本町通りを通った。本町通りの両側には、名古屋を代表する商家が軒を並べていた。商人の夢は、本町通りに店を構えることであった。
【伝馬町】名古屋第一の交通の要衝。伝馬町には問屋場が置かれていた。常備の人足百人、伝馬百匹で美濃路、飯田街道、上街道、下街道をゆく旅人の便をはかっていた。江戸と名古屋との書状や荷物の取扱いをする飛脚は、江戸まで七日間で荷物や書状を届けた。本町通と伝馬町筋との交差地点には、高札が建っていて、札の辻と呼ばれた。現在の錦一・二丁目。
【茶屋町】茶屋町は、豪商茶屋中島氏が居宅を構えていたので、その屋号にちなんで付けられた。茶屋氏に劣らず繁栄したのが、松坂屋の前身、いとう呉服店を開いた伊藤次郎左衛門家だ。現在は丸の内二丁目。
【京町】京都から清須へ移住してきた商人が多かったので京町と呼ばれるようになった。裕福な商家が軒を並べていた。染物商の町。現在は丸の内三丁目。
【玉屋町】旧東海銀行本店の場所。
【蒲焼町】築城手伝いの人夫を相手にした茶店が並び、蒲焼を売っていたからという説がある。現在はネオンもまばゆい夜の錦三丁目。
【鉄砲町】本町通、蒲焼町より入江町までの二丁。清須越の町で、清須の町で鉄砲を製造する職人が住んでいたので、鉄砲町と名づけられた。現在の錦二・三丁目、栄二・三丁目。
【主税町(ちからまち)】清洲越しの時、「野呂瀬主税」と言う人が始めて住んだことから、彼の名をとって付けたと言われている。
【水主町(かこまち)】尾張藩の水軍、千賀氏が居住していた。
【木挽町(こびきちょう)】名古屋城を築城するにあたり、木挽小屋がこの地に建てられたので、木挽職人(材木を大鋸で挽くことを業とする人)が定住するようになり、木挽町という町名ができあがった。現在は丸の内一丁目。
【武平町(ぶへいちょう)】検地を行なった普請奉行の松井武兵衛は、武平町という町名により、四百年後もその名を残した。
【両替町】藩の御用両替商平田家が住んでいたので両替町と呼ばれた。現在は愛知県産業貿易会館のあるところで丸の内三丁目。
【上材木町】上材木町は、正万寺町筋の西にある南北道路の杉の町筋より伝馬町筋の間。堀川の舟運を利用して、木曽の桧などの良材が運ばれてきた。藩では上材木町、下材木町、元材木町の三ヶ町に居住する業者に限り、材木屋の称号を許した。現在は丸の内一丁目、錦一丁目。
【八百屋町】長者町通のうち、桶屋町筋から横三ツ蔵筋までの間をいう。野菜を商う人々が多く住んでいたところから八百屋町と呼ばれた。現在の錦二丁目、栄二丁目。
【瀬戸物町】瀬戸物町は清須から移住してきた町。町名の由来は清須で、瀬戸物屋が多く住んでいたからだ。

江戸時代

がんばれ名古屋商人！

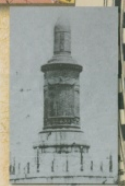
明治時代版

左図「愛知県郡合共進會記念　名古屋現勢地圖」（明治43年名古屋新聞社發行）　中図「名古屋市中央部営業案内地圖」（明治42年編輯兼發行者三共社守谷耕策）　右図「名古屋概要地圖」（大正3年扶桑新聞社發行）

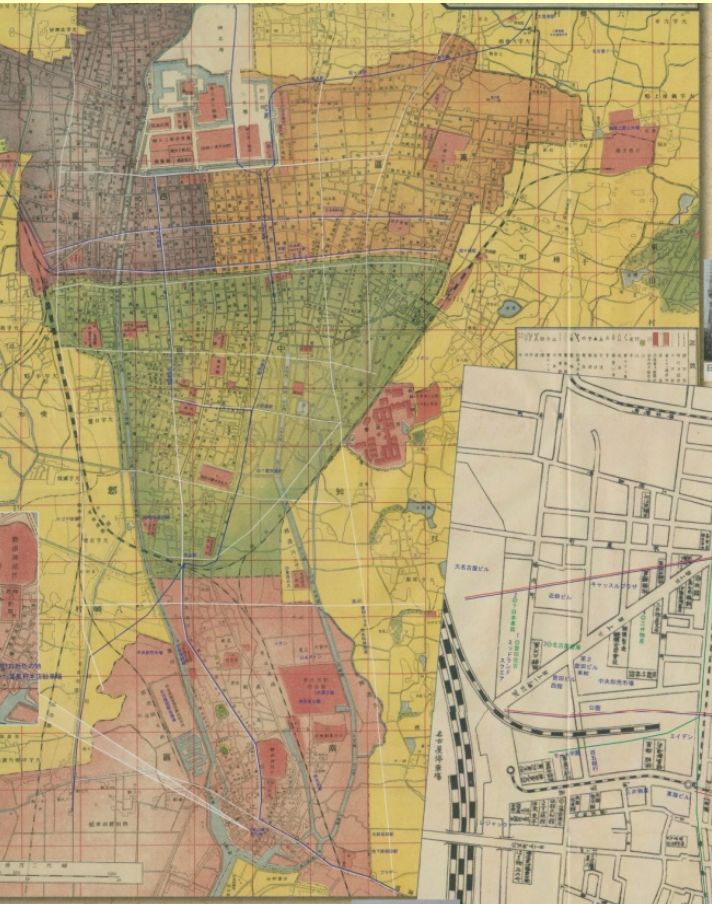
左図および中図は、地図記載の明治時代の施設・会社が黒文字になっていた。著者が記載したのは青文字もしくは緑文字である。場所を特定できなかった場合は、その周辺にあるという意味で「?」と記した。

右図は、地図記載の大正時代の施設・会社が赤文字になっていた。著者が記載したのは青文字もしくは緑文字である。

日露戦争記念碑（広小路本町）【中図49】



日清戦役記念碑（広小路）【中図40】



豊田佐吉は慶応3年生まれだから、明治の元号と同い年齢になる。明治27年に名古屋に出てきて、朝日町1丁目12（中図31）で糸綛直機の製造販売を行う「豊田代理店伊藤商店」を創業したが、その場所は翌3丁目6（再和本町）の近辺、翌38年に貫（宝）町3丁目66（中図32）に移転したが、その場所はテレビ塔のあるブロックの南側辺りだと推定される。そこで知っていた伊藤氏が相場で失敗して、佐吉もとばっちりを受けた。豊田商店に改称して自ら経営を始めた。明治30年に武平町3丁目15（中図34）に移転して、300坪の工場で動力織機の製造販売を始めたが、その場所は東区泉1丁目のヨシヒルの道を隔てて東側。明治33年に西区島崎町で織機製作工場を創設したが、それが現在のエントランスクエア（中図1）である。大正元年に西区則武新町で豊田自動織機工場（豊田紡織の前身）を設立したが、それが現産業技術記念館である。事業に成功した後に建てた家（右図1）は東区白壁1-17で、現在ダイキン工業になっている場所。

トヨタ自動車の創業者・喜一郎は、佐吉の長男として明治27年遊廓の下で生まれた。幼時に熱中する佐吉に家業を引かれ心寒ごろは、喜一郎を含んで家業に勤っていました。喜一郎が3歳の時、佐吉は名古屋に家を構え、再婚した。だから幼少時の居住地は武平町3丁目15（中図34）ということになる。高台寿町小学校（現東桜小学校）、旧制明倫中学（現県立明和高校　当時と場所が異なり現在の県立商業高校　右図10）で学んだ。大正元年、明倫中学の4年生の頃、喜一郎と上級学校への進学を望んだが、長男教育にあまり関心を持たない佐吉との間で葛藤があった。葛藤中だった栄生工場（右図11）の現場に何度も足を運び「父のこの工場をうまくいかせられるに至っていたら、その後大工学部へと進学した。成人してからの家は右図欲ったら、なお、豊田自動織機製作所の現代社長・村上彰（右図14）は、喜一郎の青山祐（宇子）の姪、その村上彰雄の内がソニーの盛田昭夫氏（右図15）だった。

松坂屋の伊藤次郎左衛門家は慶応2年、祐昌（すけまさ）が14代次郎左衛門を襲名。祐昌は明治11年に名古屋博物館長（中図63）に就任、14年には古屋商法会議所の初代会頭に就任。同年[illegible]にいた。明治銀行を明治29年に設立して頭取就任、日本車輌製造を設立して初代社長に就任。名古屋商事取引所（中図43）の理事長に就任、福寿生命（右図45）も設立。だが、熱田伝馬町にあった酒問屋、稲永新蔵に移り好きで破産事件に巻き込まれて会職を下ろし、翌年（右図1）で亡くなり、東芝山で仏門に入った。女将おたいが経営していた料亭魚半（百番櫓　中図23）がお世に入りで、清元長唄はもちろん義太夫まで語った。明治32年に名古屋初の自家用車（蒸気自動車）を持っていた。

滝兵右衛門商店（現タキヒヨー）は、4代目兵右衛門が明治8年に本町（中図20）に土地を購入して名古屋進出。4代目は明治15年に名古屋銀行（中図17）を設立して初代頭取に就任。同銀行が恐りけけ騒ぎに遭った際には私財を投じて責任を果たした。明治45年に（株）滝兵商店を設立して、4代社長に5代目の信四郎が就任。南観音屋町2ヒ2千坪の豪邸（中図70）があり、池があり滝みりて、鶴まで飼われていた。

瀧定は、初代の定助が元治元年から東万町に住み、兵隊太物卸商を営み始めた。慶応3年、2代目の[illegible]

勝田銀次郎は、明治27年に名古屋市八百屋町（中図53）で綿布問屋服部第三郎商店を創業し明治34年に店舗消失という災難に遭い廃町3丁目（中図26）に店舗を移転。日露戦争以後中国大陸などに進出して、鋼糸・綿布の大手にまでのし上がった。豊田佐吉を支援していた、ふんは富澤町47丁目（花月）（中図47）で後を明かすまで営んでこられた。第1次大戦後の綿糸相場の暴落で、痛手を受け、大正9年に自殺。その後は支配人の三輪常次郎が再建に取り組んだ。それが現在の興和。

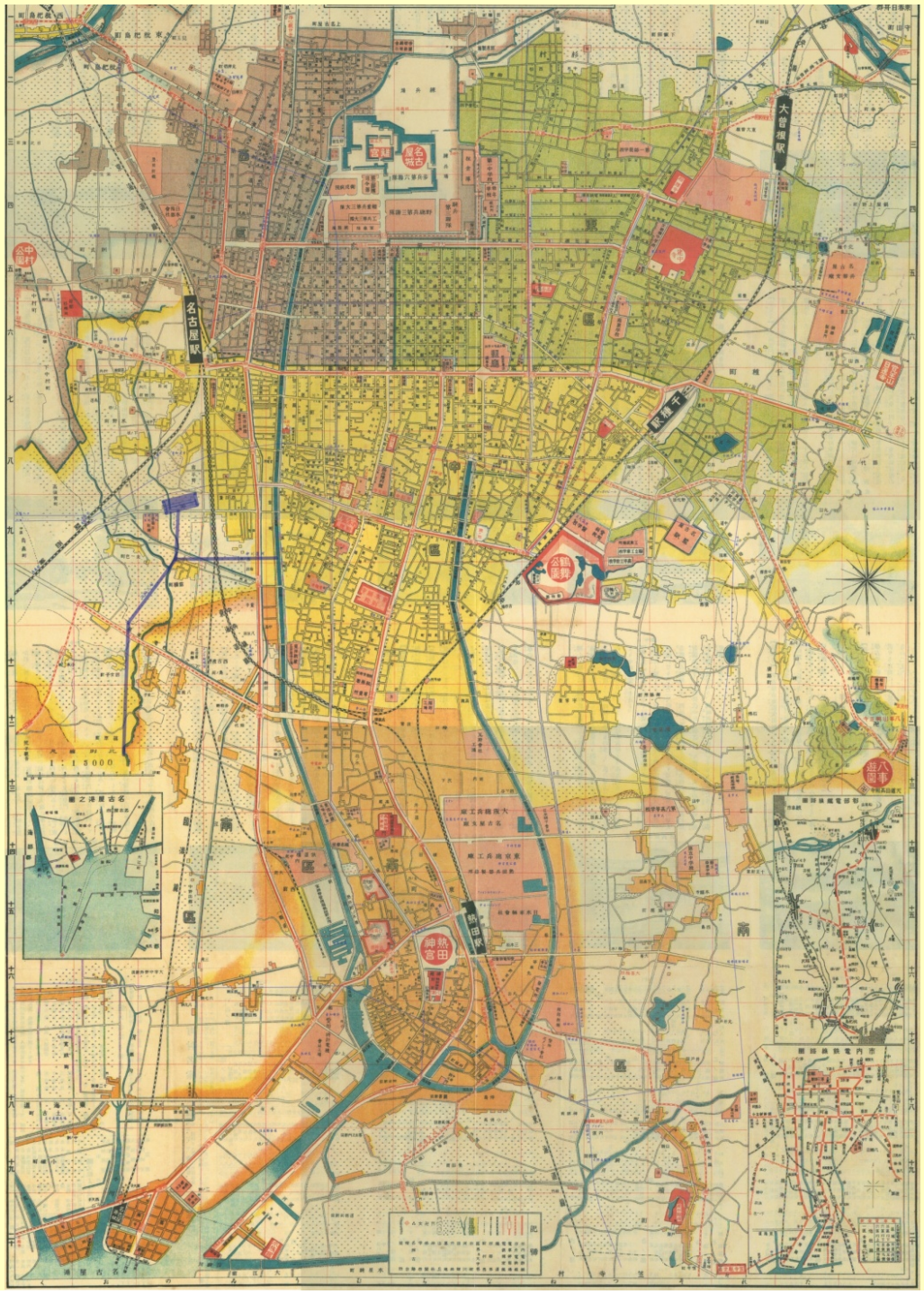
大隈栄一は、大隈鐵機商會（現オークマ）の創業者。佐賀藩出身で酒造をしたが、鍛錬機の開発に成功し、うどん屋がきかったので、名古屋で創業することに。来名すると同時に廃町（中図51）の製綿業者を訪れた。石町3丁目（中図36）で住居兼工場を借り、30年に大隈鐵機商會を創業。堂と移町3丁目（中図37）で6百坪の土地を買い、37年に住居兼工場を建築。昭和20年に戦災で焼失するまで、そこで活住。工作機械の分野には自前競争から本格参入。大正7年には（株）大隈鐵工所設立。

青木誠太郎は、愛知時計電機を発展させた。明治7年、富沢町11（中図28）では江戸時代から続く綿屋の家に生まれた。若い頃は当時ハイカラな自転車に乗るセンボーイだった。鈴木商店会社長に見込まれて明治34年に豆商時代で設立されたが、経営状態がひどかったが、再建に取り組んだ。大正15年に社長に就任し、軍需企業として発展させた。昭和11年から昭和15年まで名古屋商工会議所の第11代会頭を務め、昭和15年から昭和21年という2期の時期にも第13代会頭を務めた。

吉田禄在は尾張藩士のすで、御造地（明治時代は東区橦屋町　現東1-3丁目　右図15）の武家屋敷で誕生。名古屋区長時代に、中山道に敷設されたにもかかわらず、東海道を通るように尽力したことで知られる。その功績で[illegible]

盛田善平は敷島製パンの創業者。明治22年に半田でビール工場を造り、カブトビールというのを売り出した。第四内国博覧会共進会が開かれた際に、洋館2階建てのビアホール（中図27）を作ってビール党を場面させた。第1次世界大戦で東区出来町にドイツ人俘虜収容所ができ、その食事をみてパン製造を思い立ち、大正8年に敷島製パンを創立。

明治時代



大正時代

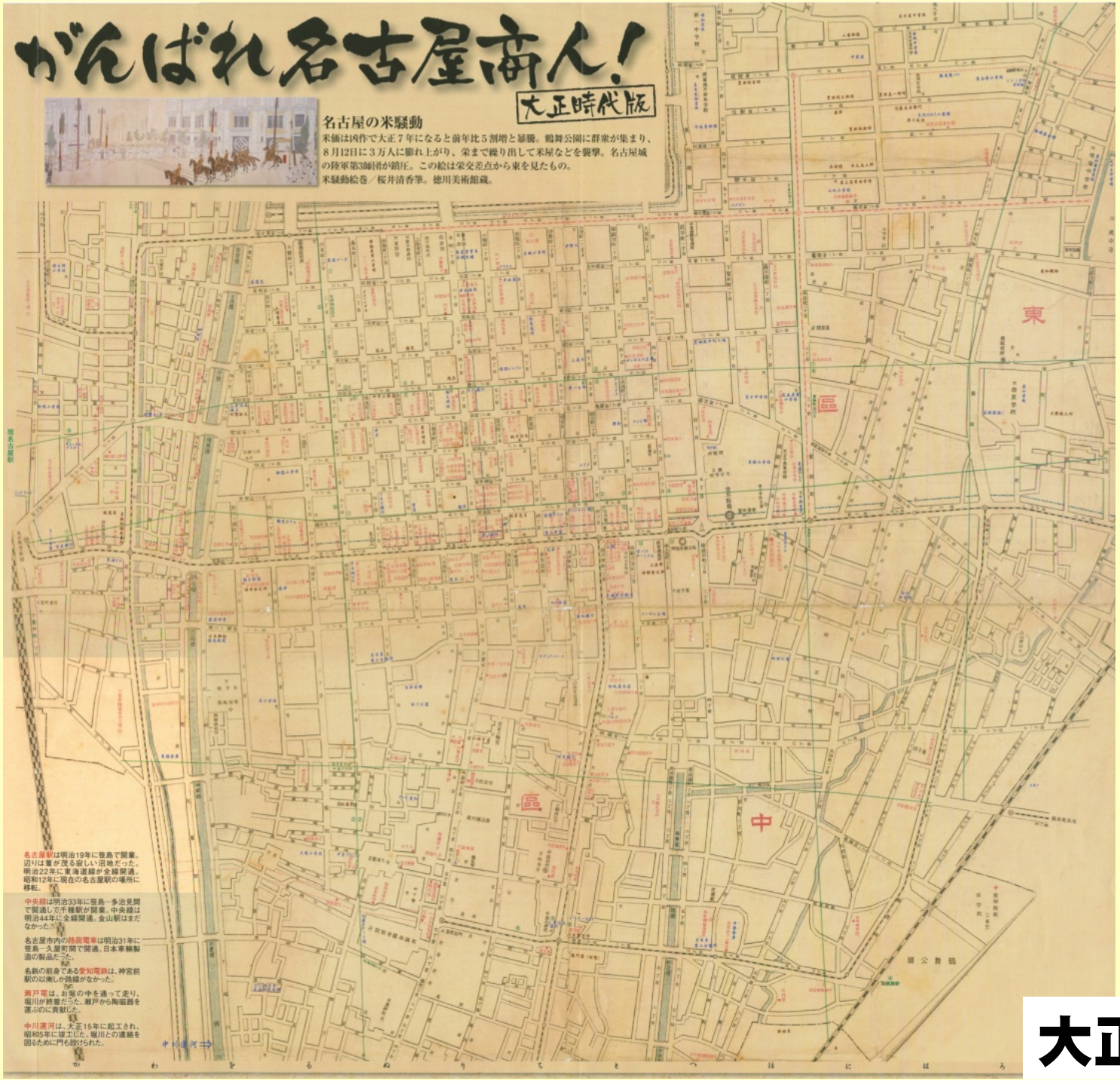
がんばれ名古屋商人！

大正時代版

名古屋の米騒動

米価は凶作で大正７年になると前年比５割増と暴騰。鶴舞公園に群衆が集まり、８月12日に３万人に膨れ上がり、栄まで繰り出して米屋などを襲撃。名古屋城の陸軍第3師団が鎮圧。この絵は栄交差点から東を見たもの。

米騒動絵巻／桜井清香筆。徳川美術館蔵。



名古屋駅は明治19年に笹島で開業。辺りは葦が茂る寂しい沼地だった。明治22年に東海道線が全線開通。昭和12年に現在の名古屋駅の場所に移転。

中央線は明治33年に笹島―多治見間で開通して千種駅が開業。中央線は明治44年に全線開通。金山駅はまだなかった。

名古屋市内の**路面電車**は明治31年に笹島―久屋町間で開通。日本車輌製造の製品だった。

名鉄の前身である**愛知電鉄**は、神宮前駅の以南しか路線がなかった。

瀬戸電は、お堀の中を通って走り、堀川が終着だった。瀬戸から陶磁器を運ぶのに貢献した。

中川運河は、大正15年に起工され、昭和5年に竣工した。堀川との連絡を図るために門も設けられた。

中川運河⇒

わ を る ぬ り ち と つ ほ に へ ろ

大正時代